



サウンドウッズでは木材コーディネーター養成講座も開講している。写真は昨年度の講座風景

討委員
会ある
いは国
産材の
加工・
流通・
利用検
討委員
会の最

えは、森林の育成や整備に関して、より多くの役割を発揮することが期待されているように見えます。
「森林経営計画」という新たな計画の枠組みへの適切な対応が求められ、ことからすれば、それも現時点ではやむを得ない面もあると思います。しかし、能口さんがやっているのと同じような役割を担うこともフォレスターとして重要な職務になるということが、いったいどれだけ意識されているのでしょうか。

昨年11月に公表された基本政策検

終とりまとめを改めてひもひもといてみると、その中では最近の需要動向に対応しながら、どうやって国産材の利用を進めていくかへの言及があります。また、原木流通に関するコーディネーターを担う人材の育成を進めるとも書かれています。
しかし、それらがフォレスターの役割として意識されているように読み取れません。そこは役割を分担するのだからということかもしれませんが、いくら計画づくりに長けていても、木の価値を引き出す能力が不十分なフォレスターでは森林所有者から頼りにされないでしょう。ここはやはりフォレスターが関与すべき部分として位置付けることが必要です。

木の価値をイメージして森を見い出せ

さらに言えば、国産材の利用促進や原木流通の効率化といったことへの
言及があるとは言え、それらは例えばジャストインタイムの販売であるとか、直送であるとかの販売システムをイメージするにとどまっているように思えます。
能口さんのような木材コーディネーターがやっていることは、いわゆる顔の見える木材の利用であり、ニッチ市場に過ぎないと指摘する向きもあるでしょう。これからは大規模工場への安定供給が重要なことから、直送などの販売システム構築の方が有効だと、そんな意見もあると思います。
しかし、これから長伐期化を目指し、多様な森づくりを進めるのであれば、十把一絡げに材を動かす効率的なやり方だけでは、森の価値を高めようとしても限界があります。そうではなく、山に立っている一本の木にどんな利用の可能性があるのかを常にイメージして森を見る。それができるフォレスターが待望されるはずですよ。

木の価値を引き出すのも フォレスターの役割

利用の仕方をイメージ
できるスキルを

林業ライター 赤堀楠雄

立木の価値を高める
木材コーディネーター
先日、ある公開講座でNPO法人サウンドウッズの能口修一さんと一緒に、木材コーディネーターとして能口さんが取り組んでいることについて聞くうちに、これから各地の森で活動することになるフォレスターにこそ、

こうした役割を担うことが求められるはずだと気づきました。
野口さんは兵庫県北東部の丹波地域を拠点とし、森林所有者が所有する立木がその価値に見合った価格で取り引きされるように、木材の生産から加工、流通、利用の全般にわたるコーディネートを手掛けています（さらにサウンドウッズとしてコーディネーター養成講座も開講）。
その重要なツールになるのが森にどんな木があるかを一本ごとに詳しく調べたデータベースです。個々の木の立っている位置、太さ、傷や曲がりの有無等々を把握し、その木をどんな形で利用すれば最大の価値を発揮することができるのかをシミュレートできるようにしておきます。そして木の家を建てたいという注文を受けたら、柱や梁、板などにどの木のどの部分を使うのかデータベースを踏まえて決めていく。そうすれば一本の木を無駄な

く使うことができ、木の価値に見合った価格での取り引きを実現することができます。
能口さんはイターンで山間地の製材工場に就職し、木の価値を生かす製材の技法を身に付けました。立木や原木の仕入れにも携わった経験から、木の目利きも確かです。そのように木材の品質やそれを踏まえた利用の仕方などに精通していることで、山の木の価値を最大限に引き出すことができるわけです。
計画づくりにばかりが重視されていないか
森林・林業再生プランではフォレスターが重要な役割を担うことになり、さしあたりは「准フォレスター」を養成することになり、今年度は各地で養成研修が行われているわけですが、これまでの議論で浮かび上がってくるフォレスター像は、どちらかと言